

令和元年度 品川区子ども・子育て会議

第2回議事録

令和元年度 第2回 品川区子ども・子育て会議
議事次第

日 時・令和元年 11 月 12 日（火） 14：30～16：30
場 所・荏原第五区民集会所 2 階 第 1 集会室

1 開会

2 議事

(1) 審議事項

第2期品川区子ども・子育て支援事業計画（素案）について

(2) 報告事項

ひろまち保育園の閉園に向けた対応について

(3) その他

今年度の会議予定について

3 閉会

1 開会

■会長

- ・令和元年度第2回「品川区子ども・子育て会議」を開催する。
- ・委員の出席状況について、事務局から報告いただきたい。

■事務局

- ・本日は、委員20名中15名の出席により、品川区子ども・子育て条例第6条第2項における定足数を満たし、本会議は成立する。
- ・傍聴者は1名。

2 議事

(1) 審議事項

第2期品川区子ども・子育て支援事業計画（素案）について

■会長

- ・本議題の説明を事務局から願います。

*事務局より、資料1「第2期品川区子ども・子育て支援事業計画（素案）」について説明。

■会長

- ・人口の伸び率が相当高く、この2年合計特殊出生率は東京都の平均を超えており、この会議の事業に関しては、かなり力を尽くしている印象を受ける。
- ・この素案では、今年度までの推移を追いながら、意向調査を踏まえて、比較的ゆとりを持った数字をこの中に載せている。まず29ページまでの間でご質問、ご意見をいただきたい。

■委員

- ・29ページの表、施設型給付施設では保育園、幼稚園、認定こども園と分かれているが、こちらの人数計と園数とは、保育園125園、幼稚園9園、認定こども園9園という解釈でよいか。

■事務局

- ・施設型給付施設の幼稚園は区立幼稚園を指す。そして新制度対象外施設にも幼稚園があり、私

学助成と書いてある欄に18園。全ての幼稚園が新制度に移行してはいないため、こちらで合計している。

■委員

- ・保育園125という数は、区立保育園を指すのか。

■事務局

- ・区立保育園と私立保育園を足した数となる。

■会長

- ・保育園に関しては、今後の5カ年で17施設増となり、約1400人増える計算が出ている。認証保育所は30人減り、他は横ばいで計算してある

■事務局

- ・認証保育所は、令和2年では25園あり、以降24園と1つ減っている。これは認可保育園に移行予定の園があるため減るという計画である。

■委員

- ・15ページ目の図だが、一番右の在宅子育てというのは、幼稚園・保育園を全く利用せず在宅で子育てしている人ということで、個人的にはかなり多い印象を受ける。これは他の区と比べて多いのか、少ないのか。

■事務局

- ・他区との比較のデータを持ち合わせてないため、回答できかねる。

■委員

- ・減る予測というのは、どういう根拠があるのか。

■事務局

- ・昨年度実施のアンケート結果から、両親とも就労を希望する方が5年前に比べかなりの割合でシフトしていることから、相対的に在宅保育が減ることを見込んでいる。

■委員

- ・同じ15ページの表だが、この在宅子育ての人数というのは、全体から幼稚園、保育施設を利用している数を引いたということによろしいか。
- ・潜在的な需要の有無も計画を左右してくると思われるが、在宅子育ての層をどのように把握されているのか。

■事務局

- ・実際に把握できる数ということでは、入園者数が最も把握しやすい。全体の中から幼稚園、保育施設に関する実績を差し引きした数だが、在宅子育ての数になると想定した。

■会長

- ・5歳までトータルで見て、在宅子育てが25.7%という数字になるということ。

■委員

- ・11ページの図表8に幼稚園は近年区立10園と書かれているが、区立9園ではないのか。

■事務局

- ・品川区にぷりすくーる西五反田があり、そちらでは3歳児以降は幼稚園相当という形で考えている。そのため、正確に言うと幼稚園ではなく1件合わないのはご指摘のとおりだが、ぷりすくーる西五反田の3歳児以降5歳児まで分も含んでいる表記となる。

■副会長

- ・幼稚園の基準日について、年度単位の幼稚園の園児数からすると、国と同様の5月1日現在ではないかと思う。一応確認をお願いしたい。
- ・15ページの図表14において、2号認定の3-5歳のところで、幼稚園利用者の想定は607人とあるが、これはいわゆる無償化をされての新2号認定の数と理解してよいのか。

■事務局

- ・2号と新2号が両方含まれている。

■副会長

- ・幼稚園利用で2号認定は存在しないと理解している。幼稚園は、あくまで新制度の認定では1号認定だけではなくて、今回この10月から幼稚園の預かり保育を無償化するというので、新2号を認定すればいわゆる2号相当の長時間利用になる。
- ・こちらは令和2年度以降のイメージになるため、もう少し厳密にご説明いただきたい。

■事務局

- ・誤認していた。2号認定の607人は、新2号の数の想定となる。

■副会長

- ・承知した。それと、今回無償化によって満3歳児の無償をやっているが、1号の3-5歳の数字に満3歳児は含まれているか。

■事務局

- ・含まれる。

■副会長

- ・恐らく無償化の影響で、来年度以降は満3歳児が若干出るため、その見込みだろうと推測する。
- ・21ページの企業主導型保育は地域型保育給付なのか。こちらに含むのは違和感がある。その辺で何か解釈があれば説明していただきたい。

■事務局

- ・こちらは誤表記である。パブリックコメントまでに表を作り直す。関連される21ページ以降の分もあわせて、「その他」の欄を設けて対応する。

■会長

- ・いくつか確認事項があったが、欄外に説明を入れると誤解も無くなる。本日配られているのはあくまで素案のため、そのあたりは修正していただきたい。

■委員

- ・同じく15ページ。左側一番上に、幼稚園利用者数が3歳から5歳で3,908人、18.5%

と記載があるが、こちらは区立幼稚園か。

■事務局

- ・区立幼稚園と私立幼稚園の合計数である。

■委員

・3,908人を区立幼稚園の利用者数と解釈をして、3,272人が私立幼稚園と解釈していた。右側の凡例を見ると、赤に紫が入っているのは区立幼稚園利用者数と書いてある。その下の茶色は私立幼稚園利用者数と書いてあり、その数は下の3,272人だと思った。

■会長

・確かにこの図表8は少し分かりづらい。私立と区立で箇所数と実人数が反対に見えてしまう。表の作り方と色分けが非常に難しい。

■事務局

- ・見やすくなるような形で検討させていただきたい。

■委員

- ・7ページと8ページは、表にも単位を掲載いただけるとありがたい。

■事務局

- ・次の会議の際には修正する。

■会長

- ・残りの地域子ども・子育て支援事業、30ページから最後のページまでではいかがか。

■委員

・極めて具体的な話になるが、一昨日旗の台で母親が授乳中に乳児を窒息させて死なせてしまった事故があり、まさに今回のこの会議に関わるような事案だと思って報道を見ていた。

・乳児家庭全戸訪問事業等では恐らくケアが難しいが、あの報道を見るとこのような事故というのはこれからも起こり得るだろうと思う。そのときに行政として何か事故を未然に防げるような、母親を休ませるような形の事業はどのあたりに該当をするのか知りたい。

・この間見学に行った一時預かり事業は、ある程度子どもも大きくなって、自分で買い物に行く、少しゆっくりするといった理由で利用が多いという話だった。

・今回はより子どもが小さく、そこで母体を少し休息させるということは、きっとこれから求められると感じる。

・まだ近々の話のためすぐに対策をとということではないと思うが、どのあたりでカバーできると想定しているのか。

■会長

・子どもの預かりについての問題か。

■委員

・結局、母親を休ませるということは、子どもをその間預かるなり色々な方法があるとは考えられるが、24時間のことなのでなかなか難しいだろうなど。

■事務局

・先日、見学会で庁舎にあるオアシスルーム見ていただいたが、49ページにある生活支援型一時保育がそのオアシスルームである。

・こちらは4ヶ月から預かっており、まさにリフレッシュのための利用が多く、中には疲れたのでとにかく預けて寝たいという母親も確かにいるのが現状。

・しかしこちらは18時までの事業で、夜の対応が今はできていない。

・夜間預かるような事業もあるので、何とかそのような方を救っていけるように、行政として総合的にやっていきたい。

■委員

・働く人の問題もあり、授乳も昼間だけというわけではないので、そこを一体どうすればいいのか、なかなか課題は大きくなると思うが、やはり求められる事案である。

■会長

・都のレベルになれば一時保護所を抱えている児童相談所もあり、子どもが小さい場合、乳児院でも1週間程度の預かりを実施している。

・とりあえずの相談となると、子ども家庭支援センターが窓口か。あるいは保健センターやネウ

ボラになるのか。

■事務局

- ・63ページの子育てネウボラ相談では、今現在児童センター9館に相談員を配置し、乳幼児を抱える母親の相談を受けている。
- ・育児疲れや育児相談は、子ども育成課の児童相談担当や子育て支援センターにつながる。
- ・ショートステイについては、1歳6か月から使える事業であり、現在は乳児を見られていない状況なので、今後の検討課題のひとつは捉えている。
- ・60ページの上段に産後の家事育児支援の利用助成があり、こちらは生後6か月までの赤ちゃんを抱える母親が利用できる事業になる。そういったものも周知しながら、母親の育児不安の解消、軽減に努めていきたい。

■委員

- ・今回10月からの無償化でオアシスルームを無償化の対象にするかどうか、結構ぎりぎりまで区として結論が出なかったように思う。
- ・話せる範囲で、どういう経緯、根拠で今の結論に至ったかというのを教えていただきたい。

■事務局

- ・国が言う無償化の対象の施設に当たるかどうかという精査をして、区としても研究し、無償化対象施設であろうということで決めるに至った。

■委員

- ・37ページ、38ページの放課後児童健全育成事業で、今後の課題と方向性の記載がある。
- ・現在、地域差はあるが児童数の増加に伴い、学校敷地内の手狭な状況が各学校でさまざまな課題として上がっている。
- ・量の見込みとして、今後5年間、確実にプラス方向にある中で、区としてこのあたりの充実を図っていく見通しとしては、今現在どのような考えがあるのか。

■事務局

- ・現在、学務課と今後のトレンドを確認したり、庶務課の工事の情報を集め、学校の改築の計画を踏まえ幾つか当たり、一つ一つの調整にかなり時間がかかっている状態ではあるが、教育委員

会と具体的に詰めるような形までは進めているところである。

■委員

- ・子どもたちは狭い中で怪我に気をつけながら、楽しくすまいるスクールに通っている。
- ・保護者も非常に助かっている取り組みであり、安全確保の上でもできるだけ早く対応いただきたい。

■委員

- ・すまいるスクールの先生と学校の先生の情報共有という動きはあるのか。
- ・例えば私が経験したのは、学校のすまいるスクールの時間、要は5時以降に学校に用事で訊ねた時、すまいるスクールの先生に学校の先生の居場所を伺ったところ、「学校のことはわかりません」と返事があり、そこどまりだった。
- ・これは質の問題になるのか、子どもに関する共有、先生同士の交流など、そのあたりはどうなっているのか。もう少し連携とっていただきたいと感じたところである。

■会長

- ・ほかの自治体と比べれば教育委員会と福祉部局との連携はいいと思うが、個別には恐らく、委員の言われたようなこともある。事務局はどうか。

■事務局

- ・子どもについての情報共有は、比較的どの学校も会を設けて情報共有をさせていただいているところである。
- ・学校の先生の所在については、どこにお伺いしてくださいという案内までできていればよかったかと思う。それについては対応も少し丁寧にするように指導する。

■委員

- ・すまいるスクールとは部分的につながることはあっても、すまいるスクールの職員の人というのは基本的に委託であり、入れかわりが激しく顔を覚えることも少なくなる。
- ・子どもの流れを考えると、結局それぞれの職員同士が時間を共有できるということが基本的にない。子どもがリレーをされていくわけで、そこでの連携というのは、そもそも構造的に無理な話である。

- ・ただ、外から見ると、すまいるスクールも学校も同じ学校の敷地の中にあるので、何かつながっているのだろうというふうにもどうしても思われがちである。

- ・子どもの動きを考えると、連携やチームを組むということ自体がそもそも起こり得ないことだということはいささか知られてもよいのではと感じる。

■会長

- ・放課後児童対策のすまいるスクールは、かなりの子どもにとって居場所となっており、家庭外の居場所としては、非常に重要な意味が放課後児童クラブにあるのだろうと思う。

■委員

- ・子どもを産むと「えっ、おっぱい飲んでないの?」「このうち今日大丈夫?」と、くだらないことが心配になる。そしてそれをいちいち行政に電話して、「私、今不安なんです」と相談することはまず無い。自分で何でも解決しなければならないと思ってしまう。

- ・私も子育てしている間に、ふらっと行った児童センターの館長に大きな気持ちで迎え入れてもらったときに、一生他の人の役に立ちたいと思った。

- ・児童センターの存在や、子どもを産んで4ヶ月で訪問してくれる事業などで少し愚痴を言い、励ましてくれる方が品川区にたくさんいれば、子育ては失敗しないと思う。

■会長

- ・色々とコミュニティーが成立しにくくなっている日本全体の状況がある中で、品川区は頑張っていると思うが、その辺をどう確保していくかということは大きな課題である。

■委員

- ・先日の離乳食の会で、初めてお会いした方同士で離乳食の解決策が出た。そのように、人と人とのつながりというのは非常に大事なことである。

- ・品川区の政策の柱で10年後の目指す姿なんていうのを考えなくても、ちょっとしたことで、皆が幸せな子育てが実現するのだと感じた。

■委員

- ・私は親子広場に携わり、親子サロンや広場に民間のフォローが入れば良いと感じている。

- ・ママたちのパワーをもう少し生かせるような事業が増えたら良いと思う。

■会長

- ・東京の23区を比較した本で、品川区の特徴は子育てをしやすい区であると出てくる。
- ・品川区には子育てをする親子が集まりやすい区であり、それだけ区は人もお金も使わなければという状況で大変である。
- ・ただ施設やサービスが充実しているだけではなくて、人と人とのつながりや関係性が豊かで人が集まってくる区と言われるようになれば、もっと嬉しいことになるのではと思った。

(2) 報告事項

ひろまち保育園の閉園に向けた対応について

■会長

- ・本議題の説明を事務局から願います。

*事務局より、資料2「ひろまち保育園の閉園に向けた対応について」について説明。

■会長

- ・不承諾とはどういう意味か。

■事務局

- ・今回の優先転園は通常の入園審査と同じ基準で実施しているが、対象者はひろまち保育園在園児であり、例えば1名しか空きがない場合、3名申し込みの場合は2名が不承諾になるという状況である。

(3) その他

今年度の会議予定について

*事務局より、資料3「第2期品川区子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール」について説明。

■会長

- ・残りの時間、全体を通して気になったようなことがあれば、ご議論いただきたい。

■委員

- ・事業をやるためにはそれを行う人間が当然必要なわけで、どれぐらい人を確保できるのか、この資料にその観点が全くない。そのあたりの基礎資料は見てみたいと思う。
- ・また、同じ家庭でも保育と介護のダブルケアで、なかなかどちらも立ち入っていかないというような家庭もあると聞き、子ども・子育ての事業といっても庁内の各部署との連携があった上で成り立つと考える。
- ・子ども・子育てだけではなくて、様々な区の施策の関係で一体的にやっていくようなものが見えれば、よりよいものになるのではないかと感じた。

■会長

- ・前回の意向調査にもあったが、区では未就学児保護者で両親がフルタイム同士の家庭が57%まであがっている。
- ・5年間で10ポイント以上増えているということは、その反面やめなくて済むようになったということではある。
- ・できるだけ区民の間で福祉関係の人材の共有や連携ができれば望ましいというか、制度化されたもの以外の部分が働けば、非常に理想的な区になってくのだろうと思う。

■委員

- ・オアシスルームは点在し過ぎていて、自転車で移動するような人でないと利用できない。小さい赤ちゃんを育て、ベビーカーやだっこひもで移動する人にとっては、遠過ぎて使いにくい。
- ・これだけ保育園が増えているので、昔みたいに可能であれば全ての保育園が少しでも預かってくれたりするとうれしい。オアシスルームをもう少し増やしていただきたい。

■委員

- ・私は初めての子どもが双子で、子育てについて何も分からず区報を見ていたら、保健センターで定期的に双子のための親子で触れ合う広場の存在を知った。
- ・同じ境遇の母親からアドバイスをもらって、それにすごく助けられたことがあった。

■委員

- ・私の娘が今5歳児、6歳児になり石井こども園で預けているが、そこでパパたち、ママたちが

ボランティアに活動するということをやっている、地域みんなで子育てしているような雰囲気にもなって非常に良いと感じている。

- ・やはり一つの懸念としては、0歳児、1歳児保護者で育児疲れの層の参加率が近年低くなってきており、小さい子がいる家ほど孤立しているような部分を体感している。

- ・運営するためにバザーを実施し、お金を得てそれを予算に色々集まりをやっているが、その辺の資金繰りが結構大変だと感じる。

- ・例えば、そういうことが何か申請で通れば活動も盛んになり、質のいいイベントができて、人が集まってきやすくなる。孤立しているような人向けのイベントを、園を中心とした地域全体でできればいいなと感じた。

■委員

- ・子どもが公立の幼稚園に通っているが、できれば就業以外での預かり保育が利用できたらいいなと思っている。

■委員

- ・無償化による変化の声は区に上がっているか。私立幼稚園は申込みが激減した。

■事務局

- ・10月から3歳以上無償化は実際に始まっているが、窓口や保護者の方からの声はそれほど上がっていない。

- ・例えば幼稚園は教育時間ということで9時から14時だが、保育園だと長く預かってもらえるので、一般的には長い時間無償である分が保育園にシフトするのではという節はある。

■委員

- ・実は、先日の園長会では、定員割れをしている幼稚園は7割近かった。これは異常なことで、こんなことは過去にはなかった。二次募集をしなければ子どもが集まらないことが各園の悩みであり、きっかけが無償化によるものなのかどうかを知りたい。

- ・話を聞いていると、長時間預かってくれる保育園のほうが良いのではというのも一つの要因かと思った。

■副会長

- ・全国的には、無償化以前に基本的に働く母親が増えているということで、幼稚園就園率はかなり下がってきている。
- ・三、四十年前だと、幼稚園就園率は日本全国平均で67%近くあり、3人に2人以上は幼稚園に行っていたという時代だったが、今はもう42%しかなく、そもそも親の就業状況の変化によって幼稚園利用が減っているというのも一つだと思う。
- ・それに加え、品川区の場合は多くがこの新制度移行しない私学助成の幼稚園ということで、完全無償にならないケースが多々ある。
- ・例えば保育料で月2万5,700円が国の定めた無償化条件で、都は少し乗っけているが、それでも高いほうの設定をしていると、差し引き若干保護者負担が残る。一方で、新制度に移行している幼稚園や保育園は、区が定めた保育料徴収基準が所得に関係なく全部ゼロになり、実質的に保育園は無料になる。新制度に移行していない幼稚園の場合は、必ずしも100%が無料にはならない。
- ・また、預かり保育も無償化しているが、1日450円見当で20日利用して9,000円まで無償なので1万3,000円、預かり保育料設定すると、差し引き4,000円は保護者負担が残る。そうすると、就労証明を出される方は、だったら保育所に行けば完全に無償になるため、そういった考えはあるかと思う。
- ・一般的には幼稚園離れの保育所志向があり、待機児童が減ると恐らく幼稚園はそれ以上に園児減の影響が増えるということも当然考えられる。色んな要素が複合して、今回そのような状況になったのではと想像する。

■会長

- ・第1期のときには0歳児人口の中のどれぐらい0歳の見込量の枠を設けたらいいのかというのが一つのテーマだったが、今回は30%で0歳の枠を設けている。
- ・放課後児童クラブの部分をどれぐらい見積もればいいのかということは大体見えてきている中で計画ができています。
- ・病児保育については、数を増やしているので、全体議論の焦点になったところは、今回は大体クリアされているかと思う。
- ・少子化の中でこれだけサービスが厚くなってきているので、大丈夫ではないかと思う。
- ・もちろんローリングも可能のため、もし事情が変われば、また区も取り組みを変えていくという柔軟な体制をとっていくのだと思う。15年ぐらいの間にもう随分、品川区もいろんなサービスが拡充してきたということを目の当たりにしている。

3 閉会

■会長

- ・本日の会議を終了する。